

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	L S J 梅田			
○保護者評価実施期間	2026年2月1日		～	2026年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数)	10名
○従業者評価実施期間	2026年2月1日		～	2026年2月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月10日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	机上活動や運動活動など、子ども一人ひとりの特性に合わせた支援を行っている。	児童一人ひとりの特性や発達に合わせて課題を設定し、集中力や理解力を育てられるよう机上活動を行っている。	子どもの様子を職員間で共有しながら、課題内容を見直し、より子供に合った支援につなげていく。
2	机上活動を通して、子どもの理解力や集中力を育てる支援を行っている。	児童一人ひとりの特性や発達段階に合わせて課題を設定し、無理なく取り組める環境づくりを行っている。	子どもの様子を職員間で共有しながら、課題内容を見直し、より子どもに合った支援につなげていく。
3	職員同士が連携しながら支援を行い、安心して過ごせる環境づくりを大切にしている。	日々の振り返りを通して子どもの様子を共有し、支援方法の統一を図っている。	職員間での情報を継続しながら、子どもが安心して過ごせる支援につなげていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもの特性に応じた支援方法の共有をさらに深めていく必要があること。	日々の業務の中で情報共有の時間が限られることがある。	朝礼で振り返りの機会を活用し、支援方法の共有をおこなっていく。
2	屋外活動や体験活動の機会が少ないこと	安全面や送迎時間の関係により活動内容が限られている。	活動内容を工夫し、子どもが様々な経験が積める機会を検討していく。
3	保育園や幼稚園、併用している他機関と密に連携をさらに深めていく必要があること	児童の通っている園や関係機関がそれぞれ異なるため、十分な連携の機会が取れない場合がある。	保護者の意向を確認しながら、園や関係機関との情報共有や連携の機会を検討していく。

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	L S J 梅田			
○保護者評価実施期間	2026年2月1日		～	2026年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数)	17名
○従業者評価実施期間	2026年2月1日		～	2026年2月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月10日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動療育の実施	身体の使い方を意識した運動活動を取り入れている。	子どもの様子を共有しながら活動内容の工夫を行っている。
2	運動療育の研修の実施	毎月一回研修を受けている。	研修で学んだ内容を日々の支援に活かしている。また、欠席した職員にはフィードバックを行っている。
3	保護者との情報共有	日々の様子について保護者と共有するよう心掛けている。	今後も保護者との連携を大切にしながら支援を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動の幅について、今後さらに検討していく必要がある	一人ひとりで得意なこと苦手なこと、安心できる関わり方がそれぞれ違うため	職員間で共有しながら支援内容の検討を行っていく
2	関係機関との連携について、今後さらに検討していく必要がある	連携の機会が限られているため	必要に応じて情報共有や連携について検討していく。
3	体験活動が少ない	活動時間や送迎の関係	子どもの様子を見ながら体験活動の機会について検討していく